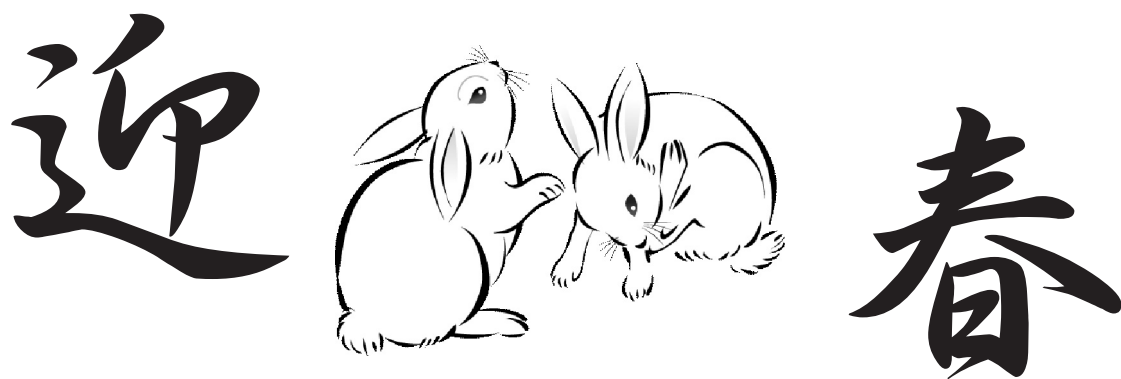




八雲町社協だより

ともに助け合い、支え合い、安心して暮らせる、
あたたかい福祉のまちづくりをめざして



年頭のご挨拶

八雲町社会福祉協議会

会長 日南 章

あけましておめでとうございます。

平成二十三年の新春を皆様とともに迎えることは、誠に
ご同慶に堪えません。

昨今、閉塞社会と云われている中で、ますます少子高齢化
が進行し、さまざまな社会問題の出現により私たちの生活
は不安が募っています。

このような状況の中で、誰もが安心して暮らせる町づく
りのため、私たちに求められていることは「ともに助け合い、
支え合う」という、思いやりの心を持って、地域の課題につ
いて「自分達で出来ることは、自分達で解決する」という気
概と行動ではないでしょうか。

現在、町内会を中心に、高齢者の見守り等「安心ほっとネ
ット」（社協の小地域ネットワーク）の福祉活動が展開中
ですが、さらにこの活動の輪を広げ、内容の充実が図られるこ
とが望まれます。

この活動は、昨年四月に施行された「八雲町自治基本条
例」や「八雲町総合計画」の重要な基本原則の一つである
「協働」であり、極めて有意義な取り組みであると思います。
私は、今後このような町民活動の普及発展と地域福祉の
さらなる向上を目指し、関係機関、団体と連携を深め推進し
て参りますので、町民皆様のご理解、ご支援をお願いいたし
ます。

年頭にあたり、私の所感の一端を申し述べるとともに、町
民皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げご挨拶といたし
ます。

第3回 八雲町社会福祉大会開催



記念講演

「今、大人たちは・・・」

平成二十二年十一月二十一日(日)八雲町シルバープラザふれあいホールにて、第三回八雲町社会福祉大会を開催し、福祉関係者、ボランティア団体、老人クラブ、一般町民等約二二〇名が参加されました。

最初に、社会福祉関係に尽力され、今は物故者となられた方々に対し黙祷を捧げ、日南会長から式辞を述べ、引き続き表彰状の贈呈を行いました。

八雲町社会福祉協議会会長表彰は、二十名の方が受賞され、一企業に感謝状が贈呈されました。また、北海道社会福祉協議会会長表彰を日南会長、中央共同募金会会長表彰と北海道共同募金会会長表彰を八雲町共同募金委員会松井会長からそれぞれ伝達を行いました。顕彰者については、別記のとおりとなっております。

表彰式に引き続き、来賓から祝辞をいただき、八雲高校によるボランティア実践報告ということで、一年間の活動や今年初めて参加したボランティア愛ランド北海道2010 in さっぽろの感想について映像を交えながら報告していただきました。

記念講演では、「今、大人たちは・・・」と題して、江差町正覚院住職 松村俊昭氏に講演していただきました。

内容については、子供たちは大人をきちんと見て育つということや、お年寄りを敬うことなど、笑いを交えながら福祉のあるべき姿を話していただきました。

最後に、八雲町ボランティア連絡協議会川口会長に大会宣言をしていただき、盛会の内に終了しました。



八雲高校

「ボランティア実践報告」

受賞おめでとうございます。

社会福祉事業功労者に対して功績を讃え表彰状を、高額寄付者には感謝状を送り感謝の意をあらわしました。

また、北海道社会福祉協議会会長表彰及び中央共同募金会会長表彰並びに北海道共同募金会会長表彰の伝達を行いました。

ここにご芳名を掲げて、心からの敬意を表します。



【八雲町社会福祉協議会会長表彰】

☆社会福祉協議会役員として永年勤め、その功績顕著なもの

干場 光 (落部)

☆福祉団体の役員として永年勤め、その功績顕著なもの

岡嶋 誠 (落部)
稲舩 孝満 (熊石相沼町)
石岡 一美 (東町)

☆民生委員及び児童委員として永年勤め、その功績顕著なもの

吉田 健三 (相生町)
増井 ケイ (本町)
高橋 清 (黒岩)
大井 信夫 (春日)
佐々木 正彦 (落部)
益田 直江 (熊石泊川町)
平井 信子 (熊石西浜町)
田中 恵子 (熊石折戸町)

☆ボランティア団体の役員として永年勤め、その功績顕著なもの

松浦 智子 (出雲町)
伊藤 弘子 (落部)
小林 智香子 (本町)
宮川 嘉子 (出雲町)
新垣 民子 (豊河町)
川口 洋子 (本町)
吉原 保夫 (未広町)
渡部 俊治 (本町)

【感謝状の贈呈】

☆愛情銀行に多額の金品を寄贈し、本会の福祉事業に寄与したものの

株式会社長谷川水産

代表取締役 長谷川 博之 (落部)

【伝達】

☆北海道社会福祉協議会会長表彰

落部婦人ボランティア

八雲民謡会

芳賀 智子 (住初町)

☆中央共同募金会会長表彰

本杉 正治 (東町)

大会宣言

私たちは、住み慣れたまちで、安全に安心して幸せに暮らすことのできる地域社会の実現を願っています。

そのためには、子どもから高齢者まで、男性も女性も、障がいのある人もない人も、すべての人々が地域で暮らせるまちづくりを推進していくことが必要であり、あらゆる人々との連携・協働のもと、できる人が、できるところからの活動を進めていくことが求められています。

また、関係機関、施設、団体が共に力を合わせて取り組むことも不可欠であります。

以上のことを踏まえ、私ども福祉関係者は、第3回八雲町社会福祉大会開催にあたり、地域住民が相互に協力し、健康で生きがいをもって生活を送れる地域の実現に向けて、地域福祉の推進に努めていくことを、ここに宣言します。

平成22年11月21日

第3回 八雲町社会福祉大会



☆北海道共同募金会会長表彰

八雲町立黒岩小学校児童会
北海道立八雲高等学校生徒会

【敬称略、順不同】



平成22年度 八雲町社会福祉協議会 役職員研修視察

役職員の資質の向上と事業推進の糧とするため、10月21日研修視察を行いました。

今年度は、ボランティア活動や介護保険事業、社協の組織運営について、先進的に事業を展開している長沼町社会福祉協議会を研修地とし学んできました。

65歳以上の独り暮らしの方、70歳以上の方を対象に年数回行っている「ふれあい昼食会」には、ボランティアが手作りの昼食や演芸を披露して高齢者の方を楽しませており、地域毎で行うサロン（ミニデイサービス）事業は年15回程開催されており、ゲームやおしゃべりができる高齢者の憩いの場でボランティアがその事業の担い手となり活躍していました。

介護保険事業は、安定しない収入から経営という厳しい現状を痛感させられました。

また、報告のあと活発な意見交換が行われ、充実した研修となりました。

参加した役職員は、地域的な課題もあるが八雲でまだ行っていない事業等を検討し、研修で学んだことを地域福祉のさらなる推進に繋げていきたいと話していました。



第2回熊石地域の福祉を語る会

平成22年11月12日（金）午後6時から、社会福祉協議会が主催する「第2回熊石地域の福祉を語る会」を、あわびの湯地階ホールで開催しました。

**“ともに助け合い、支え合い、安心して暮らせる
あたたかい福祉のまちづくり”**

のために、熊石地域の福祉関係者や住民、社会福祉協議会の関係者などが一堂に会し、熊石地域の福祉をいかに進めたいのかを真剣に協議すると共に、参加者による交流も深めました。

当日は町内会や女性団体、老人クラブなどの代表者51名が参加し、それぞれの地域での活動などについて発表して、今後のあるべき姿などについても提言をいただきました。

○地域の人たちが、楽しく笑顔で暮らすためには、気軽に集まれる場所をつくったり参加したりしながら、普段から支え合うことが大切。

○高齢者が増えていく地域の中では、お互いに助け合う仕組みを一層進めていくべき。

○これからも地域づくりのリーダーとして活動し、高齢者や町民に喜びを提供していきたい。

○笑顔いっぱい町にしていきたい。

などなど、熊石地域の福祉について大いに語り合っていました。

「私たちの地域が、もっともっと安心して暮らしやすくなるようにしよう」この日参加して下さった方たちの結論でした。





渡島管内ボランティア活動研究協議会

平成二十二年十一月十三日（土）七飯町にて平成二十二年年度渡島管内ボランティア活動研究協議会が開催され、八雲町からは二十二人が参加しました。

全体講演で、北海道社会福祉協議会ボランティア部会長川本俊憲氏に『ボランティアを振り返ってみませんか』をテーマに貴重なお話をしていただき、参加した方達は、自分のボランティアを振り返る良い機会となりました。講演終了後、渡島四市町村で活躍しているボランティア団体の紹介、各分科会に分かれ、『傾聴ボランティアを学ぼう』では、相手の気持ちを考えて聞くことの大切さを学び、『あなたの住んでいる地域は？』では、隣近所との関わり大切さを学びました。

ボランティア愛ランド北海道2010 in さっぽろに参加しました!!

平成22年10月30日（土）～31日（日）にかけてボランティア愛ランド北海道2010 in さっぽろが開催され全道から約1,200名のボランティア関係者が札幌市に集結しました。



八雲町からの参加は、ボランティア団体から15名と八雲高校の学生7名が参加しました。1日目の全体会ではボランティア奨励賞の贈呈式が行われ、「演劇と福祉」を題材に芸能サークル『生きがい探偵団』による劇を鑑賞しました。

2日目は、各自それぞれの会場に分かれ分科会が行われました。

今大会のサブタイトル『つなぐ・つながる～一緒にいっしょ』というタイトルどおり“つながり”をテーマに自然、町、人、動物などについて学びました。

参加された学生からは「貴重な経験ができた」「また参加してみたい」「勉強になった」と話していました。

他の地域のボランティアを知ることによって色々な発見ができ、自分の周りでもできるボランティアがあることに気づくよい機会となりました。

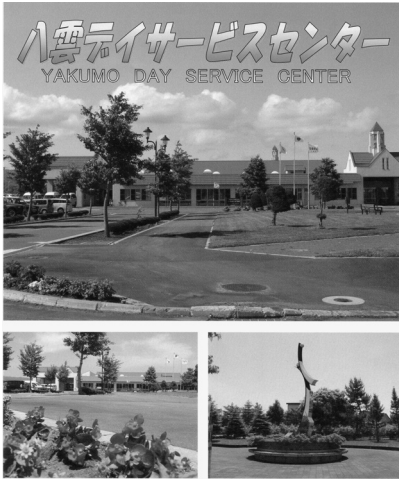


ふれあいサークル・収穫の集い



共同募金助成事業として、今年で二回目となる「ふれあいサークル・収穫の集い」を十一月十六日（火）午前十時から熊石福祉センターで開催しました。この事業は、高齢や体調が優れないために、外出したり会話の機会や交流がなかなかできない人たちに、楽しみや喜びの機会を提供することを目的に開催しているもので、この日は十八名の方々が参加して下さいました。十時からは、保健師によって健康についてのお話やゲーム、健康相談などをを行い、昼には熊石ボランティア協議会の会員が栽培したさつまいも、大根、持ち寄ったカボチャを使い、キノコ汁やカボチャのおかゆ、酢の物など、心のこもった料理を作っていたいただきました。おいしい料理をいただきながらの会話は、楽しく和やかに進み、午後からのカラオケや演芸も大いに盛り上がりました。参加した方々は、来年も元気で、またあいましよう約束していました。





八雲デイサービスセンター お知らせ

町民皆さんや、これから利用したいと考えている方に、もっとデイサービスセンターを知っていただきたく、パンフレットを作成しました。1日のスケジュールや年間行事等も掲載し、利用者の皆さん、ご家族の皆さんがよりよいサービスを受けられるよう考えながら運営しております。パンフレットについては、社協窓口やデイサービスに設置しておりますので、気軽にお問い合わせ下さい。

八雲デイサービスセンター TEL0137(63)4110

皆さんの温かい善意のご寄付 ありがとうございました

ボランティアセンター（愛情銀行）

平成22年10月16日～平成22年12月15日（順不同・敬称略）

一般寄付

- | | |
|----------------------|---------|
| ・松の会八雲支部一同 | 39,800円 |
| ・はまなす老人クラブ | 13,599円 |
| ・八木英行 本町 | 30,000円 |
| ・大島隆 立岩 | 30,000円 |
| ・曹洞宗北海道第一宗務所第二教区 | 93,035円 |
| ・小原流八雲支部(昭和60年度より継続) | 10,000円 |
| ・戸田芳昭 立岩 | 10,000円 |

物資寄付

- | | |
|----------------------------|---------|
| ・八雲町母子寡婦会(昭和17年度より継続) | タオル100枚 |
| ・八雲町老人クラブ連合会(平成20年度より継続) | 石鹸30個 |
| | タオル157枚 |
| ・北海道コカ・コーラボトリング(株)八雲営業所 | 飲料水43箱 |
| (昭和59年度より継続、社協から5ヶ所の施設へ配付) | |



じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金

赤い羽根共同募金運動が10月1日から始まり、町民皆様から善意の募金が集まってきております。なお、12月15日現在の途中経過をご報告いたします。

赤い羽根共同募金実績

実績額 3,447,467円

(目標額 4,300,000円)



社協活動メモ

十月

- ・東町連合会敬老会
- ・八雲町社会福祉協議会役職員研修視察
- ・ボランティア愛ランド北海道二〇一〇 in さっぽろ
- 札幌市 長沼町

十一月

- ・第四回理事会
- ・八雲ボランティア黒松内福祉施設慰問
- 黒松内町
- ・熊石地域の福祉を語る会
- 渡島管内ボランティア活動研究協議会
- 七飯町
- ・八雲地区保護司候補者検討協議会
- ・施設相談員専門研修Ⅰ・Ⅱ(高齢)
- 札幌市
- ・年末調整説明会
- ・第三回八雲町社会福祉大会
- ふれあいサークル・収穫の集い

十二月

- ・第一回八雲町民生委員協議会定例会
- ・八雲ライオンズクラブクリスマス家族会

会報第二十号 ◎八雲町社協だより◎

平成二十三年一月一日発行
二海郡八雲町栄町十三一
社会福祉法人 八雲町社会福祉協議会

TEL 0137-64-2112
FAX 0137-63-2160

赤い羽根共同募金の配分金は、八雲町社協だよりの発行にも役立てています。